

かなパラ通信

編集・発行 一般財団法人 かながわパラスポーツ協会

みんなにスポーツ
みんなでスポーツ



一般財団法人 かながわパラスポーツ協会

〒251-0871 神奈川県藤沢市善行7-1-2 県立スポーツセンターグリーンハウス内
 TEL. 0466-83-0033 協会携帯電話 090-9682-0035 FAX. 0466-83-0034
 e-mail jimukyoku@kanagawa-parasports.or.jp
 ホームページ <https://kanagawa-parasports.or.jp>

Contents

会長コラム	レジャー・レクリエーション・スポーツ四方山話 よもやまばなし ～その6～ 余暇化(Leisurelization)による“運動”的日常生活化への試み	3
TOPICS		4
東京2025デフリンピックメダル獲得情報		
事業報告		4
かながわみんなのスポーツフェスティバル		
ゆうあいピック大会／ピアスポーツかながわ		5
精神障害者スポーツ大会 ／障害者スポーツサポーター養成講習会		6
パラスポーツ指導者スキルアップ研修 ／市町村等スポーツ教室への講師派遣		7
加盟団体紹介（かながわ障がい者フライングディスク協会）		8
会員募集案内		8

いつもご支援ありがとうございます

かながわパラスポーツ協会加盟団体一覧（令和8年1月現在 敬称略・順不同）

【加盟団体】

かながわ障がい者フライングディスク協会	神奈川県知的障がい者サッカー連盟	特定非営利活動法人 神奈川ボッチャ協会
認定NPO法人 スペシャルオリンピックス 日本・神奈川	一般社団法人 神奈川県聴覚障害者連盟	神奈川県知的障害施設団体連合会
一般社団法人 F・マリノススポーツクラブ	神奈川県サウンドテーブルテニス協会	神奈川県FIDバスケットボール連盟
神奈川県パラスポーツ指導者協議会	藤沢市障がい者スポーツ連絡協議会	神奈川県柔道連盟
神奈川県フロアバレーボール協会	神奈川県ゴルボール協会	一般社団法人 善行大越スポーツクラブ
一般社団法人 日本車いすバスケットボールアカデミー		藤沢市山岳・スポーツクライミング協会

【賛助会員（団体）】

ハウスコム 株式会社	人生わくわく船	NPO法人 昴の会	株式会社 安藤スポーツ
学校法人藤嶺学園 藤嶺学園藤沢中・高等学校	株式会社ユニバーサル トレーニングセンター	神奈川県バトン協会・ 横浜市バトン協会	藤沢スポーツクライミング 協会

会長コラム

レジャー・レクリエーション・スポーツ四方山話 よもやまばなし ~その6~

余暇化(Leisureization)による“運動”の日常生活化への試み

キーワード：(1)ワークライフバランス^{註1)}(2)楽しさとおもしろさの本質[その違いと異なり]^{註2)}

(3)肯定的精神姿勢[Positive Mental Attitude]

自身の時間や活動には常に何らかの制限があり、生活の全般を捉えてみれば、ワークライフバランスが生活形態の中で考慮すべき軸となる。ワーク(仕事)とは、労働のみを示すものではない。児童・生徒・学生では、勉学が中心的な仕事にあたる。人それぞれがライフステージに課せられた果たさなければならない事柄が存在する。その内容で、“仕事”とその他のいわゆるライフにあたる“私生活”については均衡や釣合を考えるのではなく、むしろ調和や両立をはかることが大切である。

私生活(ライフ)におけるレジャー・レクリエーション・スポーツの存在は多岐にわたり生じる。それぞれの概念等の関係は(図1)に示すとおりで、レジャーの中にレクリエーションが存在し、そのレクリエーションの中にまたスポーツが存在する。レクリエーションは当然“全人間的活動”(「あたま」を働く=認知的領域=Cognitive Domain、「こころ」を交わせ=情意的領域=Affective Domain、「からだ」を使う活動=神経筋的領域=Psychomotor Domain)であることは言うまでもない。

レジャー(余暇)とは、小さく刻まれてしまう時間や活動ではなく大きな塊で、決して余った暇などではなく自由裁量活動や自由裁量時間として創りあげていくものだからこそ、「生きる喜び」や「豊かで潤いのある暮らし」の創造に役立つものとなる。

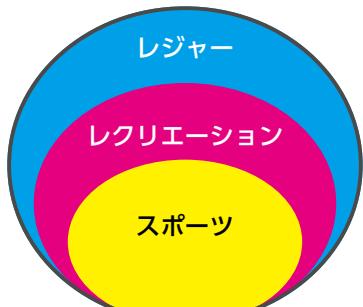


図1. レジャー・レクリエーション・スポーツの概念の領域とそれらの位置関係

レクリエーションとは、3条件を有し、それらは、①余暇(レジャー)になされ、②自由に選択され、③楽しむ(おもしろさを味わうことを含む)ことを主たる目的としてなされる活動である。

スポーツとは、語源(Disport)からも「本来の仕事から心や体を他に委ねることから起こる身体運動(Physical Exercise)と運動競技(Athletic Competition)」である。

運動は、仕事の中でも、遊びでも、生活の多岐にわたる場面でも現れてくる。例えば、通勤時に交通機関を使用せず意識して歩行(Walking)を取り入れ、健康づくりや体力づくりに役立てようとすれば、拘束されている状態を変え活動の自由裁量化を意味する“余暇化(Leisureization)”したことになる。ただし、ある活動が手段化されるとき、その活動本来のおもしろさや楽しさが消滅されるのだから、おもしろさと楽しさの創造が活動の中に求められる。仕事(労働や勉学等)を有する人々にとって日常的にスポーツ・運動を実施することが難しいのだから、日常生活化としての運動を余暇化によって工夫・創造していくことが大切である。

MLBの大谷翔平選手はスポーツの語源の意味からも、厳密に言えばスポーツを行っているのではなく、仕事としてプロフェッショナルベースボールを行っている。ただし、MLBを見る側としては、スポーツの“する”、“見る”、“支える”のうちの余暇の一環として“見るスポーツ”を楽しんでいる。我々が日々仕事を有している中ではスポーツを容易にはできないのだから、余暇化により自由裁量活動や自由裁量時間を日常生活の中で創造する試みが必要にもなる。

余暇化を実現し実践していくためには、自身による時間の管理(マネジメント)や活動の実施にあたって、事象や事柄を、“こうすれば”、“こうやれば”と良い方向で捉え、積極的で肯定的な精神を持つ姿勢、即ち、肯定的精神姿勢(Positive Mental Attitude)で余暇化(Leisureization)したいものである。またそこからレジャー・レクリエーション・スポーツの楽しさやおもしろさが引きだされてくるに違いない！

レジャー・レクリエーション・スポーツを正しく理解するために、本来は、「本質をついた見方」の意味を持つ、“穿った見方”により、改めて真のレジャー・レクリエーション・スポーツを再考し、余暇能力(Leisurability)を働かせて余暇化への試みを進めたいものである。

註1. ワークライフバランスとは

ワーク(仕事)とライフ(私生活)とのバランスとなっているが、この場合のバランスは均衡や平衡と捉えるのではなく、むしろその調和や両立と捉えた方が良い。私生活の内容は、正に余暇の3機能(①休息・休養、②気晴らし・娯楽、③自己啓発・社会参加)そのものであり、時に単独機能のみではなくこれらの3機能の組合せ(カップリング化)や混ぜ合わせ(カクテル化)がワークライフバランスにはとても大切である。

註2. 楽しさとおもしろさの本質(その違いと異なり)とは

「おもしろさ」とは、秘密の発見や秘密の解き明かしで、事象を外側から捉えるときに起こるもので秘密の発見や秘密の解き明かしの過程をおもしろいと感じる。その秘密が既に解き明かされたりしていればその事象をおもしろいとは言わない。おもしろいと感じ続けることは、秘密の解き明かしが継続的に存在していることを意味する。

「楽しさ」とは、自身を取り巻く人や事象との交流である。「おもしろさ」は点であり、「楽しさ」は面や線であると理解できる。交流が必ずしも人との交流のみを意味しているのではなく、ペットや、海、山、川などの自然との交流でもあり、その事象との交流によって楽しさを味わうことになる。



一般財団法人 かながわパラスポーツ協会 会長
社会福祉法人 磯子コスモス福祉会 理事長

鈴木秀雄

(関東学院大学 名誉教授、学術博士、Ph.D.)

TOPICS

11月に開催されたデフリンピックでは、多くの神奈川県ゆかりのデファスリートが活躍されました。以下にその一部をご紹介します。

東京2025デフリンピックに出場した神奈川県ゆかりの選手のメダル獲得情報（敬称略・順不同）

■水泳

茨 隆太郎

男子200m自由形 金メダル



男子200m個人メドレー 金メダル



男子400m個人メドレー 金メダル



男子400m自由形 銀メダル



男子100mバタフライ 銀メダル



男子200mバタフライ 銀メダル



男子4×100mメドレーリレー 銅メダル



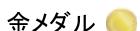
■陸上

荒谷 太智

男子4×400mリレー 金メダル



■バレーボール女子 金メダル



平岡 早百合

佐藤 愛莉

高演 彩佑生

中田 美緒

長谷山 優美

■サッカー女子 銀メダル



阿部 菜摘

宮城 実来

■テニス

宮川 百合亜

女子ダブルス 銀メダル



■柔道

水沢 瑞紀

男子90kg級 銅メダル



男子団体戦 銅メダル



■卓球

川口 功人

男子団体戦 銅メダル



かながわみんなのスポーツフェスティバル

10月12日(日)スポーツの日を翌日に控え、「かながわみんなのスポーツフェスティバル」が神奈川県主催で開催されました。誰もが同じようにスポーツを楽しみ、それを通してコミュニケーションを深める機会となることを目的としており、当協会もパラスポーツ競技の運営を担当しました。

前日は悪天候でしたが当日は雨も上がり、300名を超える多くの方が参加され、それぞれの興味や体力に応じて様々なスポーツを楽しんでいました。

■テニスコート

テニス教室

フリーテニス

当日自由参加



■陸上競技場 鬼ごっこ

事前申込の必要なコーナーでしたが、多くのご家族が参加。普段走る機会の少ないお父さん・お母さんからは「一番大変だったかも？」という声も。。。



■アリーナ2

メインフロアの他、複数フロアを使って様々な体験を楽めたアリーナ2。気軽にスポーツやパラスポーツ、普段なかなか触れる機会のない競技用車いすの体験など、子どもから大人、そして障がいのある方までどの体験コーナーも多くの人でぎわっていました。なかには「また来ちゃいました～」という楽しそうなお子さんの声が響くコーナーもあり、充実した休日になったようでした。



ゆうあいピック大会

第42回神奈川県ゆうあいピック大会は、9月までに全日程を終了しました。サッカー競技の一部は開始後に天候が悪化したことから、交流試合のみ実施とするなど変更を強いられる部分もありましたが、いずれの競技も選手たちの熱心なプレイが見られました。

各競技の結果は以下のとおりです。

バスケットボール競技

- 日程 令和7年7月21日（月）
8月9日（土）
- 会場 アサンテ スポーツパーク アリーナ2
- 参加チーム数 26チーム（うち女子6チーム）
- 結果

ブロック	優勝	準優勝
女子ブロック	川崎サンダース女子	川崎市立田島支援学校
男子Aブロック	AST	川崎サンダースA
男子Bブロック	日野中央高等特別支援学校	ファイト
男子Cブロック	二つ橋	Amici B

サッカー競技

- 日程 令和7年5月24日（土）25日（日）
5月31日（土）
- 会場 アサンテ スポーツパーク 人工芝コート
- 参加チーム数 23チーム
- 結果

ブロック	優勝	準優勝
Aブロック	FCオルテンシア・アクティブA	横浜F・マリノス フットワールドセカンド
Bブロック	FCオルテンシア・アクティブB 1st	横浜F・マリノス フットワールドフォース

*31日は悪天候の為、C、Dブロックは交流戦のみ実施

バレー・ボール競技/ソフトバレー・ボール競技

- 日程 令和7年9月7日（日）
- 会場 横浜市港南スポーツセンター
- 参加チーム数 4チーム/6チーム
- 結果

	優勝	準優勝
バレー・ボール	シガール ホワイトレオーネ	日野中央高等特別支援学校 A
ソフトバレー・ボール	ふようペガサス ブラック	日野中央高等特別支援学校 A

ソフトボール競技/ティー・ボール競技

- 日程 令和7年9月27日（土）
- 会場 NITTANパークおおねスポーツ広場
- 参加チーム数 2チーム/3チーム
- 結果

	優勝	準優勝
ソフトボール	横浜市立二ツ橋高等特別支援学校	Two3(ツースリー)
ティー・ボール	横浜市立二ツ橋高等特別支援学校	七沢学園



ピアスポーツかながわ

今年度の第1回ピアスポーツかながわは令和7年6月28日(土)にアサンテ スポーツパークで、第2回ピアスポーツかながわは令和7年10月10日(金)にカルッツ川崎で開催されました。

事前予約は不要で、参加者の方の興味に合わせてフットサル、バスケットボール、卓球、バドミントン、ソフトバレー・ボール、ボッチャ、ラダーゲッター、ビームライフル、REAXION、X-BALLなどの体験ができました。

例年どおりプロチームの指導者の方から指導を受けられるフットサルやバスケットボールも変わらず人気でした。また、今年度はフリースローコンテストや得点を競うなどのゲーム性をより多く取り入れ、バラエティに富んだ体験を提供しました。会場では、より盛り上がって楽しんでいる様子が見られ、体験者数も増加しました。

今年度第3回ピアスポーツかながわは令和8年1月30日(金)13時よりスカイアリーナ座間で開催します。



精神障害者スポーツ大会

令和7年11月21日(金)にボウリング競技、令和7年12月5日(金)にバレーボール競技を実施しました。

ボウリング競技会は今年も多くの方が参加され、各レーン盛り上がりを見せていました。

バレーボールは第25回全国障害者スポーツ大会の関東ブロック地区大会予選も兼ねているため、各地域の優勝チームは地区大会への出場権を獲得しました。また、1位チーム同士の交流戦も実施しチームさいとうが1位となりました。

●バレーボール競技 大会結果 (参加チーム数：7チーム)

神奈川県域		横浜市		相模原市	
優勝	re : (アールイー)	優勝	チームさいとう	優勝	Flying Fish
2位	湘南スポーツクラブ	2位	チーム舞岡	2位	SGV
3位	Victory大和				

●ボウリング競技 大会結果 (参加選手：59名 / 男性 45名、女性 14名)

男子の部			神奈川県域		
1位	サッキー	TOTAL340ピン	1位	池田	TOTAL216ピン
2位	渡辺 純	TOTAL323ピン	2位	ともこさん	TOTAL213ピン
3位	マサ	TOTAL305ピン	3位	竹内 信子	TOTAL206ピン



バレーボール競技会の様子

ボウリング競技会の様子

障害者スポーツセンター養成講習会

障害者スポーツセンター養成講習会は県内のパラスポーツ関連の各種大会・イベント等においてボランティアスタッフとして活躍する人材を養成する講習会です。今年度も計4回の実施を予定し、現時点で第3回までが終了しました。10代から70代までの幅広い年齢層で計43名の方が受講を終え、サポートの認定をうけています。

講習会は様々な障がいを持つ方への理解・車いす利用者や視覚障がい者への介助方法の体験・県のパラスポーツへの取組についてやパラスポーツ体験等で構成され、2日間の日程です。

受講者からは、講師陣の深い知識やわかりやすい説明、支える側・支えられる側の実体験ができる事などへの高評価を受けており、何より楽しんで学ぶことができた！との声が多かったです。

ボランティアに興味がある方、様々な人たちとスポーツを楽しみたい方、普段の仕事や活動に関連のある方等、少しでも興味がある方はぜひ当協会ホームページから講習会について確認してみてください。



パラスポーツ指導者
スキルアップ研修の
様子



障害者
スポーツセンター
養成講習会の様子



パラスポーツ指導者スキルアップ研修

パラスポーツを支える人材の指導者としての資質の向上とともにパラスポーツの普及を図るため、毎年実施しているスキルアップ研修です。サポートー養成講習会は広く基礎的な学びを行いますが、こちらはよりそれぞれの障がいや競技に特化した指導方法を学ぶことができます。現在までに全5回中4回までが終了しています。

第1回研修は、水泳競技でも特に視覚障がい者のサポート・支援に特化した研修でした。なかなか具体的なサポート方法を学べる機会がなかったという受講者の方々はとても熱心に研修を受けられていました。

第2回はデフリンピックを控えて周知の進むデフスポーツの指導に関する内容で、当協会の理事でもある早瀬氏ご夫妻を講師に迎え指導現場でのコミュニケーションについて学びました。数種のデフ競技の練習を体験し、グループに分かれて指導方法を検討・実践し、改善点についてフィードバックを受ける形式を取り入れ好評でした。

第3回は知的障がい者への指導に必要な工夫や配慮について、バスケットボールを例として具体的な接し方など配慮についての理解を深めながら実技を行いました。

第4回はブラインドフットボールを取り上げ、参加者は実際にアイマスクをし視覚情報がない中で音や言葉のみで状況を把握する体験をしながら、効果的な伝達・指導方法を学びました。

いずれの研修でも「実技を楽しみながら学びを深めることができた。」との声を多くいただいている。

第1回	視覚障がい者の水泳指導時のサポート法・指導方法	第4回	ブラインドフットボールの指導・支援方法
第2回	デフスポーツの指導現場で活かすコミュニケーションスキル	第5回	車いすバスケットボールの指導方法
第3回	知的障がい者へのスポーツ指導・支援方法		

市町村等スポーツ教室への講師派遣

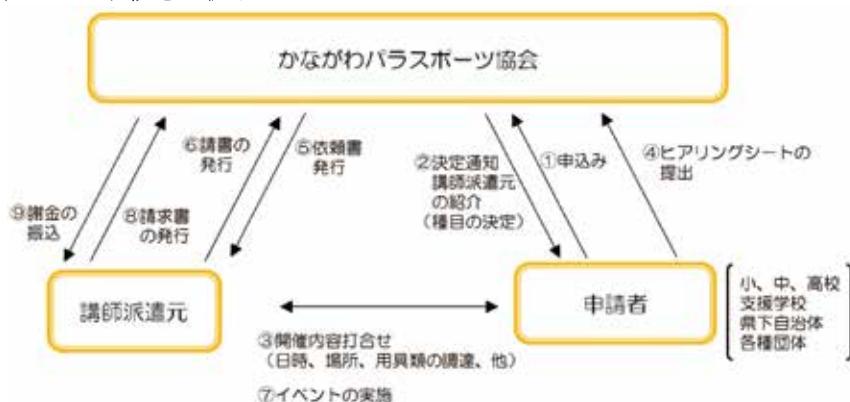
～あなたの学校や団体でパラスポーツイベントを実施してみませんか？～

当協会では、県内で開催される市町村、学校及び各種団体等が主催する障がい者スポーツ教室やイベント等に希望に応じてパラスポーツの講師派遣を行っております。申込みは電子申請となっており、講師謝金は県が負担(1件につき、上限32,000円)します。

今年度の派遣期間は令和7年4月～令和8年2月で、第1期募集を令和7年2月14日～3月7日に、第2期募集を令和7年4月18日～5月23日に行い、年間を通して60件の派遣を決定しました。

令和8年度も引き続き実施予定です。詳しい日程やお申込み方法は概ね2月以降当協会のホームページ等でご確認ください。

■申込みから終了までの手続きの流れ



実際の
様子

【中学校で行われた車いすバスケット 体験の様子】

子どもたちにとって貴重な体験になり、福祉について考える良い機会にもなったとの感想をいただいている



【幼児～小学生対象で行われた スポーツの会の様子】

遊びの延長の活動など、楽しみながらも運動発達を促す工夫のある内容でとても良かったとの感想をいただいている



かながわ障がい者フライングディスク協会

1 沿革

当協会は2003年4月に、日本障害者フライングディスク連盟公認で、神奈川県在住の審判員の会として発足しました。2001年にフライングディスク競技が‘全国障害者スポーツ大会’の正式競技となり、また2004年よりの当協会主催の‘FDreamかながわ障がい者フライングディスク競技大会’の開始にあたり、審判業務の向上、フライングディスク競技の技術の習得、またより良い指導者を目指して今日に至っています。

フライングディスク競技は‘全国障害者スポーツ大会’唯一の障害区分(アキュラシー)の無い競技です。この理念を大切に競技の普及を推進しており、これからも一層精進をしてまいります。



2 活動の目的・内容

当協会では競技の普及はもちろんですが、フライングディスク遊びを通して身体を動かすことの大切さ、キャッチ＆スローを通してコミュニケーションづくり、またインクルーシブスポーツの理念にも重きをおいて活動をしています。

実際の活動としては、小学校・中学校のフライングディスク遊び・競技を通しての福祉体験授業、各行政のスポーツイベントへの出展、当協会主催の‘FDreamかながわ障がい者フライングディスク競技大会’等の普及活動、「全国障害者スポーツ大会’各行政の予選会の審判業務、そして‘全国障害者スポーツ大会’でのコーチ派遣(県・横浜市・川崎市・相模原市)の業務も担っています。

ぜひ皆さんもフライングディスク審判員の資格を取得し、活動に参加してください。



－ 全国障害者スポーツ大会・滋賀(2025) －



神奈川の各選手団



悔し涙からのメダル獲得



〈連絡先〉 〒249-0005 逗子市桜山7-8-26 かながわ障がい者フライングディスク協会(事務局長・秋元宅)
e-mail kanagawa_fd2003@yahoo.co.jp TEL 090-8434-7045

賛助会員募集

当協会はスポーツを通じて「ともに生きる社会かながわ憲章」を実現することを目的として、障がい者スポーツの大会運営、障がい者スポーツを支える人材の育成、障がい者スポーツの普及などに関する事業を行っております。

障がい者スポーツを盛り上げていくため、活動を支援してくださる賛助会員を募集しています。
多くのみなさまのお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

年会費

団体 年間一口 5,000円

個人 年間一口 1,000円

お申込み方法など、詳しくはこちら →

